



学校だより

3月号
横浜市立桜台小学校
令和6年2月29日発行



HPはこちらから

心のキャッチボール

校長 小宮 健

メジャーリーガーの大谷翔平選手から日本全国の小学生に贈られたグローブ。「野球しようぜ！」というメッセージとともに、この桜台小にも1月30日（火）に届きました。全校集会で子供たちに紹介すると、歓声が沸き起こりました。6年生の教室から順に回して、実際に手にはめたり、感触を味わったりしています。

そんな様子を目の当たりにして、私も久しぶりに子供たちとキャッチボールがしたくなり、自宅にあったグローブを引っ張り出して学校に持ってきました。小学生の頃は同級生たちとキャッチボールをよくやったものです。たまに相手してもらえた父親とのキャッチボールは、自分にとってこの上ないうれしいひと時でした。そのときの風景は今でも目に浮かんできます。

当たり前のことですが、キャッチボールは相手がいないでは成り立ちません。そして、『ボール』を『人の想い』へ置き換えてみると、キャッチボールは相手とのコミュニケーションそのものだということに気づきました。



【ボールを捕ること = 相手の想いを自分が受け止めること】

投げられたボールの強さや速さは、相手の想いを表していて、それを受け止めることは相手の心情を理解することと似ています。時には上や横にそれて手が届かなかったり、ワンバウンドで捕りにくかったりすることもあります。受け止めきれずに後逸して拾いに行くこともあるでしょう。もちろん、よそ見していたら捕れません。基本は相手と正面から向き合うことですが、相手があまりにも一方的なときは、見逃したり、無理に捕りにいかずにあきらめたりすることもあるかもしれません。

【ボールを投げること = 自分の想いを相手に伝えること、受け止めてもらうこと】

投げるボールは自分の想いです。相手の状況（経験値や力量）を踏まえつつ、胸を目掛けて取りやすいボールを投げます。大人が子供に投げるときは発達段階によって加減をします。投げたボールが相手にしっかり届くと安心するし、「ナイスボール！（いいね！）」と反応されるとうれしくなります。

このように日常的なコミュニケーションや相手意識のある言動は、正に「心のキャッチボール」といえるのではないのでしょうか。

今年も1月中旬から2月末にかけて、給食後の時間に校長室で卒業を前にした6年生とのグループミーティングを行いました。自己紹介、小学校生活での思い出、クラスの様子、自分の宝物、これからの目標や将来の夢について話してもらい、「心の距離」を縮めながら、子供たちの想いを受け止め、成長を実感することができました。

3月19日（火）に第68回卒業証書授与式が挙行されます。一人ひとりに気持ちを込めて卒業証書を渡し、輝く未来に向けて希望という名のエールを送りたいと思います。

地域の皆様、保護者の皆様、今年度も子供たちを温かく見守り、教育活動へのご理解と多大なるご支援を賜りまして心から感謝申し上げます。令和6年度も桜台小をどうぞよろしく願いいたします。